

ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL51 平成20年1月



迎春

医療福祉から、“保健”医療福祉へ

新年明けましておめでとうございます。

真誠会は医療福祉の複合体として成長してきました。しかしながら平成20年より本格的な予防医学の時代に入っていきます。

具体的にはメタボリック症候群（いわゆるメタボ）の健診と指導が主体となる特定健診、特定保健指導という新しい健診のスタイルになります（40歳から74歳まで）。

この特定健診、特定保健指導のために私たちは、医療機関もソフト、ハードともに整備する必要があります。また、しっかりした保健指導のためには優秀な保健師、管理栄養士、健康運動指導士などによるチームの構成も必要です。

真誠会はそのような新しい時代のニーズに合った質の高い特定健診、特定保健指導ができる体制をつくり、予防医学、保健分野で信頼できる活動をおこない、真誠会が今までの医療福祉複合体から“保健”医療福祉複合体へ進化したいと考えております。

また、平成19年に開設した真誠会医療福祉連携センターの活動をさらに活発にして、他の医療機関、医療福祉施設、地域との連携を密にして、真誠会が地域一人一人の皆様方のお役に立ちたいと願っています。



医療法人 真誠会
社会福祉法人 真誠会
理事長 小田 貢



社会福祉法人浴風会
認知症介護研究・研修東京センター長
聖マリアンナ医科大学名誉教授
長谷川 和夫 先生

長谷川和夫先生特別講演会 「認知症ケアの今とこれから」

平成 19 年 11 月 17 日、長谷川式スケール (HDS-R) の開発者として有名な長谷川和夫先生が、鳥取大学医学部で行われた公開講座の後、真誠会 (弓浜ホスピタウン) で「認知症ケアの今とこれから」というテーマで特別講演会が開催されました。

講演会開始前におっしゃったことですが、長谷川先生が長谷川式スケールを開発するきっかけは、元鳥取大学医学部精神科教授の新福尚武先生が、東京慈恵会医科大学の教授になられた後、医局に入られた長谷川先生が新福先生から助言をいただき開発したのが、長谷川式スケールだったとのことでした。長谷川式スケールの誕生秘話は、鳥取大学医学部と深い関係があることがわかりました。

真誠会の講演も公開講座の形式で行われましたので、近隣の医療機関、福祉施設関係者、行政、また遠方ですと鳥取県の若桜町からのお客様もありました。

長谷川先生は現在、聖マリアンナ医科大学名誉教授、社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター長でいらっしゃいますが、とても温厚でやさしい紳士の先生でした。

認知症に関して、そして長谷川式スケールに関して、また認知症のケアについて講演されましたが、終始微笑みを絶やすことなくお話をされました。

結局、認知症に対するケアの真髄は理屈よりもこの長谷川先生の微笑みとやさしさではないかと感じました。

また、真誠会にとっては認知症に関する領域では神樣的な存在である「長谷川和夫」先生に来ていただいたことは新しい歴史を刻んだという意味にもなりました。



全体で約300名の方が参加されました



たくさんの来場の皆さんでお見送りをしました

第3回弓浜助け合いネットワーク

ともに支え合い助け合うまちづくり

平成 19 年 12 月 2 日 (日) 弓浜ホスピタウン (2000 年ホール) にて「第 3 回弓浜助け合いネットワーク」が開催されました。

予想の 200 人を上回る約 250 人の住民の参加者があり、会場の 2000 年ホールが満員になりました。

各校区から一題ずつの発表があり、子育て支援、認知症、公民館活動、いきいきサロン、子どもの見守り、パトロール、地域包括支援センターの活動など生活の基本的なことに関連する内容で以下のとおり発表がありました。



たくさんの方にご来場いただき、地域間のネットワークが広がりました

- 1) 「米子市の取り組みについて」 …………… 米子市福祉政策室 和泉 憲明氏
- 2) 「地域福祉 (福祉のまちづくり) 推進事業の取り組み」 …………… 米子市社会福祉協議会 田村 圭介氏
- 3) 「高齢者と児童への支援」 …………… 大篠津地区民生児童委員協議会民生児童委員 本池智恵子氏
- 4) 「じげのてごしあいこ」 …………… 和田地区民生児童委員協議会民生児童委員 矢倉 敏彦氏
- 5) 「彦名地区地域福祉の現状と今後の取り組みについて」 …………… 彦名公民館館長 定岡 淳二氏
- 6) 「見守りと育ちのなかで生まれるものは…」 …………… 夜見地区民生児童委員協議会主任児童委員 松本知砂江氏
- 7) 「ふれあいの給食サービス活動」 …………… 富益在宅福祉員会会長 足立 京子氏
- 8) 「地域福祉推進事業ならびにいきいきサロンの実施状況」 …… 崎津地区社会福祉協議会会長 角 頼政氏
- 9) 「弓浜のまちづくりはネットワークで!」 …………… 米子市弓浜地域包括支援センター 小坂 一氏



意見発表者の皆さん

最後は定番であります「ふるさと」を全員で合唱し終了となりました。

今回で 3 回目の開催となりますが、過去の第 1 回目、第 2 回目に比べてより多くの地区住民の皆様「弓浜助け合いのネットワーク」に対する理解、参加意識があったように感じました。

今後第 4 回、第 5 回と回を重ねるごとに、助け合いの意識が強くなり、また認知症に対する理解、受け入れもよくなり、本来の住みやすい、安心、安全なまちづくりが少しずつ進んでいくと思います。

来年の第 4 回は地区住民から 300 人ぐらいの参加を目指してがんばりたいと思いますし、また弓浜地区でのこのような動きが、米子市の各地区で広がることを期待します。



みんなでオリジナル体操をしました

第12回ホスピタウン交流会 in神戸



米子ホスピタウン



熊本ホスピタウン



公立豊岡病院



真星病院

11月24日(土)、25日(日)の二日間、神戸でホスピタウン交流会が行われました。

参加した病院は主催者の真星病院(大石麻利子院長、理事長)にしくまもと病院(林茂病院長)、公立豊岡病院(倉橋卓男但馬救命救急センター副センター長兼部長)、それに真誠会から8人が参加しました。

初日は「職員教育」「人財育成」「職員が参画する病院、施設運営」をテーマに各施設より発表がありました。真誠会からは、前田課長が「これからの真誠会の企業戦略ー全員参画型のプロジェクト活動の実際ー」を、また森本部長が「目標管理導入による職員教育の実際ーキャリアアップ支援に向けてー」を発表しました。

初日の夕方は神戸港に向かい、神戸湾観光船ルミナス神戸2(4,778トン)に乗り、船上で懇親会が行われました。懇親会の冒頭は特別講演として、真誠会小田貢理事長が「医業経営におけるリーダーのあり方についてー一国は一人をもって興り、一人をもって亡ぶー」について講演をしました。その後はお互いの施設、出席者紹介があり、神戸港のきれいな夜景を見ながら、和やかな交流の時間を過ごすことが出来ました。

最後は真星病院のテーマソング「見上げてごらん夜の星を」を全員で歌って終了となりました。

二日目は、真星病院の通所施設「まほしの里」で以下のとおり、発表会が行われました。

- 1) にしくまもと病院院長林茂先生「大腿骨頸部骨折地域連携パスについて」
- 2) 公立豊岡病院倉橋卓男先生「但馬地域での医療体制事情」
- 3) 真星病院藤井淑子総合サービス課長「特定健診に向けて現状と今後の課題」
- 4) 真星病院理事長・院長大石麻利子先生

「インフォメーションスライド上映」

非常に内容の濃い発表ばかりでした。

昼食後は真星病院から来年の開催病院、にしくまもと病院へ交流旗が手渡されました。

その後、みんなで来年のにしくまもと病院での再会を誓って、まほしの里を後にしました。



ホスピタウンの仲間たちです



小規模多機能センター真誠会ふる里 (和田)

一周年記念!! 第1回地域交流・ふる里まつり



平成19年10月20日(土)午後より地域と合同で『第1回地域交流・ふる里まつり』を開催しました。当日のふる里広場の会場は、400人余りの来場者で身動きできないほどでした。まつりステージのオープニングは、和田町荒神太鼓演奏で始まり、崎津子供会傘踊り・春蘭会の踊りや地域の皆さんのカラオケ歌披露などで熱気に溢れました。またバザー・金魚掬い・抽選会の各出店も大盛況でした。地域の皆様、ボランティア協力ありがとうございました。



春蘭会の皆さん



勇壮な和田町荒神太鼓



会場はあふれるばかりの来場者でした!



金魚・ヨーヨーつれるかなあ〜

平成19年真誠会セントラルクリニック

健康教室

平成18年12月に「生活習慣病予防を考える会」を発足しました。そこで、平成19年はメタボリック症候群に焦点を当てて、合計5回の健康教室を開催しました。延べ123人の方に参加していただき、医師・栄養士・健康運動指導士・看護師・臨床検査技師と共に講義やウォーキング、食事会などを通して気軽に勉強しました。いつもより皆さんの健康（生活習慣）に目を向けていただけたのではないかと感じています。これからも皆さんの健康づくりへ向けてのきっかけになればと思います。

今年も健康教室を開催する予定にしています。皆さんの健康づくりの第一歩になれば嬉しいです。

【平成19年健康教室は以下のとおり開催しました】

- 1回目：2月24日（土）院長講演「スマートなからだで健康長寿」
- 2回目：4月12日（木）ウォーキング「楽しく歩いてカロリー消費」
- 3回目：6月28日（木）梅木先生講演とグループワーク「メタボリックに対する理解を深める」
- 4回目：10月18日（木）昼食会「健康食ってどんな食事？」
- 5回目：12月 6日（木）「理解できたかな？ メタボリック」

【2回目は皆さんとウォーキングで汗を流しました】



教育の努力が実る!! 多数の資格試験の合格者

平成19年には認知症ケア専門士が新たに15人誕生し、累計約30人、介護支援専門員（ケアマネジャー）が9人誕生し、累計48人となりました。真誠会では一にも教育、二にも教育、三にも教育を

うたい文句に、教育体制を充実させてきました。また、資格試験の前には、既に資格を取得しているスタッフがボランティアで講師となって資格試験の支援体制を作り、受験指導、模擬試験を行ってきました。その結果、いろいろな資格試験で高い合格率が見られるようになり、また全体的にいろいろな資格試験に対して挑戦するという積極的な風潮が生まれてきました。

なかでも介護支援専門員（ケアマネジャー）は全国平均の合格率が16%の中、真誠会では21人の受験者で9人の合格者がありました。合格率は約41%と圧倒的な高さでした。ここ3年間の真誠会での教育中心の指導方針が実を結んだ結果といえます。

真誠会では今後もこの教育中心主義を継続し職員全員が資格を、そして出来れば一人で複数の資格を取得して、質の高い医療、福祉、介護が提供できるようにして行きたいと思っています。



ケアマネジャー合格者9名です!!



辻田耳鼻咽喉科



なぜ医者になりたいと思った？

辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

以前、なぜ医学部を受けたのか？なぜ医者になりたいと思ったのか？とよく聞かれることがありました。実はそう聞かれてもチャンと答えられません。ボクの家は両親もその他の親戚にも医者なんていなかったし、別に親から強制された訳でもなかったです。高校に入った頃は理系の数学や物理はとて苦手でしたし、本を読むのが好きでしたのでただ漠然と文学部に行きたいと思ってました。ところがその頃はなぜか医学部ブームで友達の多くが医学部を受けると言っていました。だから、それにつられて、ヨオーシあいつが医学部受けるなら、オレもだ。という感じで医学部志望としました。だからとりたてて高邁な理想に燃えてという訳ではなかったのです。当然数学と物理がまったくダメだったので、担任の先生から、「おまえ、よくこんな成績で医学部受けるなあ」と言われ、それがまたコンチクショーと火がついて、それからそれこそヘドが出るほど勉強しました。ボクの人生の中であとにも先にもあれ程勉強した時期はありません。

なぜ医者になりたいと思ったのか？あえて言えば人が好きだからです。医療に携わると人が生まれてから、亡くなるまで付き合うことができる。ほかの職種よりはるかに濃く人と関わることができると思ったからです。だから、毎日新しい患者さんに出会うのがとても楽しみです、その患者さん、特に子どもさんたちが成長して大人になって行くのを見るのも楽しみです。今はもう閉園してしまいましたが、保育園の園長をしていた時もこれも同じ理由で子ども達が大きくなっていくのを見るのがとても楽しみでした。

ボクは映画が好きで結構良く見に行きます。それもアクションものよりホロッとするような映画が好きで、たまに子どもと一緒にいきます。最近見た映画は「武士の一文」「佐賀のがばいばあちゃん」「シャーロットの贈り物」「レミーの美味しいレストラン」「自虐の詩」etc。どれもみな他愛のない作品ばかりですが、なぜかボクはどれを見ても、思わずウルウルとなってしまいました。いい年こいたオッサンのくせにと思うのですが、特に最近は涙腺がゆるくなったのかすぐ泣いてしまいます。そんなボクのことを見透かして、知り合いから「お前は、お人好しですぐ人に騙されやすいから、気いつける」と暖かい忠告をもらいました。たしかに自分でもそう思います。すぐ人に感情移入してしまいます。でも、よく考えたら医者はそのくらいのお人好しがいいのかもしれませんが、逆にお人好しでないと出来ない職業かもしれません。

最近、小学校の先生から聞いた話ですが、近頃は小学生でもかなりケータイを持っていて、直接話をするのじゃなくケータイでしか、コミュニケーションが取れない子が増えてきているとのことでした。だから人とうまく付き合えずに些細なことでトラブルを引き起こすし、またそれを収拾する術を知らない。それを聞いてぞっとしました。無機物の冷たさを感じました。これから先の世の中一体どうなってしまうのだろう。他の職種も皆そうですが特に医療は人と人の関わり合いが基本です。その為には、専門知識や技術と同じように、豊かな感受性、人間性が必要です。いまの子どもたちの将来を思うとチョット心配です。

さて、今年平成 20 年は、このホスピタウンも 20 周年を迎えます。ボクはホスピタウンの目を見張る成長について行くのがやっつです。今年もサプライズの連続でしょう。今年もガンバルゾ！



いえはら歯科



いえはら歯科
院長 家原 猛

08 新春の御挨拶

2008 年 謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

平成 20 年の今年は、ホスピタウンが誕生して満 20 年を迎える大きな節目の年であります。

いえはら歯科は、真誠会医院（現真誠会セントラルクリニック）の開院から遅れること 1 ヶ月余の昭和 63 年 0 月 25 日に開院しました。

振り返って見ますと、真誠会医院院長の小田先生が米子で実現されようと提唱されていた「ホスピタウン構想」は、加速する高齢化社会を目前にし、進歩し普及するであろう IT 技術との融合の中に、明るさと快適性をも感じさせる、まさに時代を先取りした Vision でありました。その高い見識と先見性。そして、それを具現化した多くの施設を次々と誕生させて来られました。驚きの連続でした。その力強いリーダーシップ、決断と実行力は大きな推進力でありましたが、一方で大きな Venture でもあつたはずで。見えないところでの分析、情報の収集、的確迅速な対応があればこそと思われ。また、特筆すべきは、日野原重明先生との御交流から伝わる「日野原 ism」です。キリスト教的ボランティア精神や医療人としての心など、精神的に大きな柱となりました。そして、「がいなネット」の創設の時も驚きでした。時期・規模・主旨など時流の読みの鋭さ・捉え方には感心するばかりでした。

20 年という大きな節目を迎えるにあたり、その大きな包容力に改めてこころから感謝と敬意を申し上げます。

決して平坦ではない、大きな荒波に晒されたこの 20 年間でした。いま新たなステージへの幕開けに決意するとき、その過程で鍛えられ培われたものの上に、少し力みを抜いてこつこつと努力を重ねて行きたいと静かに考えています。

今春は後期高齢者医療など新たな制度も発足します。公益法人・医療法人の制度改革などもあります。あまり大きな希望というよりは、身近なところから少しずつこなして行きたいとも考えています。少し気になるのは、あるであろう総選挙。

本年が皆様方にとってより良い年でありますよう、
ご健勝とご多幸を祈念しつつ、新春の御挨拶と致します。





中 下 医 院



腎臓移植における社会ネットワーク

中下医院
院長 中下 英之助

死体腎移植、生体腎移植に続く移植医療として、病気腎移植が宇和島徳州会病院の万波医師とそのグループにより行われました。しかし病気腎移植に対して医学的妥当性がない、摘出された患者と移植患者の同意手続きなどに倫理的にも不備など数々の問題点が指摘され、その手法の是非に対して検証がなされました。最終的に、厚生労働省により病気腎移植を原則禁止の通知となりました。わが国では毎年新規の透析患者が1万人を超えるにもかかわらず、移植は1千例たらずで、大半が生体腎移植であるために、近親者からの提供がない場合、移植の機会は少なくなります。移植腎のドナー不足の現状から、癌の再発リスクのある病気腎でもほしいという状況があり、病気腎移植においては透析患者、移植腎提供者、移植医・透析医をつなぐ特有の社会的ネットワークがみられます。

生体腎移植は夫婦、親子、親族間という一親等の血縁と家族内の絆という相互の保証人の関係があり、ドナーの代償は実際には家族内で清算されると思われまます。

病気腎移植は万波医師を中心に、親しい人間関係にある、瀬戸内地区の移植医療中核病院勤務の泌尿器科医によりなされました。この内輪付き合いのできる移植ネットワークでは、親しすぎると閉鎖的となり、公正性を欠く傾向が生じやすくなります。万波医師グループの病気腎移植に対して、病気腎患者の同意手続きの不備などに非難が起こりましたが、他方で共感者がみられるように、透析患者、病気腎提供者、医療従事者の間に、強固な集団を形成した移植医療ネットワークがあります。

死体腎移植はドナーの権利を尊重、レシピエント選択の公平性を確立など、望まれる臓器移植を目指して10年前に臓器移植法が施行されました。同時に脳死移植の道が開かれ、献腎数の増加が期待されましたが脳死移植数は増加せず、さらに心停止後の献腎提供数が減少して、移植症例の増加に直結しないというジレンマ状態が見られます。これは脳死臓器移植ネットワークが設立されて中央主体となり、移植コーディネーターはいますが、従来地域に根ざした移植医や透析医が一体となった献腎の啓蒙活動ネットワークがバラけて機能しなくなりました。

移植医療は倫理・道徳観が求められますが、現実の社会生活におけるネットワークでは個人的な道徳的問題だけでなく、臓器提供に対する対価の保証という社会的側面が生じます。フィリピン政府で検討されている臓器の金銭売買市場の提案など、臓器移植における臓器提供の仕組みには動機づけが必要であり、現実に人間の卵子や精子、代理妻の市場が現れています。従来からある臓器市場の反対論にみられる、“人間の身体の一部を売り物にてはいけない”という道徳心重視の風潮では、なかなか臓器移植提供の増加は望めません。現状では、移植臓器の提供者やその家族、ドナーの意思がある人において、移植臓器提供の優先や、奨学金、税金、医療費の控除などの特典が得られる等の優遇策も検討する時期です。移植医療では透析患者とその家族、臓器提供者、医療関係者、移植医療に理解のある人に利益をもたらす、移植ネットワークの構築が必要です。まずは医師をはじめとした医療関係者がドナー登録の意思を示すことが望まれます。





米子ホスピタウン真誠会 (河崎)



第13回米子ホスピタウン真誠会文化展

平成 19 年 11 月 1 日～7 日まで、米子ホスピタウンゆうとぴあ広場で、恒例の真誠会文化展が開催されました。1 日のオープニングセレモニーでは、河崎小学校 3 年生の皆さんが合唱を発表してくださり、とても和やかなひとときを過ごしました。そのあと、利用者さんたちは生徒さんたちに手を引かれ、ゆっくりと展示作品を見てまわりました。元気な子どもたちからたくさんの元気をもらわれたのではないのでしょうか♪

河崎小 3 年生の
みなさん



弓浜ホスピタウン (大崎)



第6回弓浜ホスピタウンふれあい文化展

平成 19 年 11 月 22 日～28 日弓浜ホスピタウン 2000 年ホールにて、第 6 回弓浜ホスピタウンふれあい文化展が開催されました。初日の 22 日にはオープニングセレモニーが行われました。崎津小学校 4 年生の皆さんによる合唱・合奏もあり、参加された皆さんも一緒に口ずさみながら、「秋」を肌で感じた時間でした。

利用者さん、ご家族の方、地域の方、職員からたくさんの作品を出展していただき、2000 年ホールがとてにぎやかに彩られました。

崎津小 4 年生の
みなさん





平成20年



看護・介護統括部長
森本 靖子

制度改革の津波に備えて、最大の防御は『教育』である。との一昨年の理事長の新年のお言葉をいただいて以来、『人財育成の大樹』の考えを基本として、大樹の根幹と専門性を高めるための学びが充実した正に猪突猛進の1年間でありました。認知症ケア専門士が新たに15人誕生し、計約30人、介護支援専門員が9人誕生し、計48人、他福祉住環境コーディネーター資格取得などなど、職員の努力と成長の証が鮮明でした。これらに基因するであろう外部による介護事業所のすべてのサービスの質評価も、満足のいくものでした。

この間、地域の皆様のおほめ、お叱りなど宝石のような財産を多くいただきますと共に、御導きいただきましたことを改めて御礼申し上げます。

今年は、小田理事長が地域一体となったコミュニティ事業としてのホスピタウン構想をうちだされて以来、成人となる記念すべき年を迎えました。

第3次ホスピタウン戦略の多彩な色と大きな夢を満載した3つ目の豪華客船が大海に船出いたします。

はからずも12干支の第一番目の子年、新たなスタートラインに立ちましたが、原点を見失わないことが大切であり、目標はNo.1のサービスの質の提供、職員はOnly oneの人間性を育み、夢を求めて歩んでいくことだと思います。

昨年の1年間を締めくくる世相を表す漢字は、悲憤にたえない『偽』。

真誠会は、普遍的に真実を求め、まじめで誠実である真誠会であることに誇りがあります。そして、人間愛の理念、社会貢献、立派な社会人の育成などの教育理念が具現化した、ゆるぎのない成熟した環境があります。それでも時折、私たちは、まんが日本昔話の『ねずみのすもう』、やせたねずみと太ったねずみが土俵の真ん中ですもうをとり、『でっかんしょう、でんかしょ』と呼ばば楽しくなるという様子を思い浮かべてみる余裕を持ちたいものです。

地域の皆様の信頼に応えられるように、職員一同、Withness(支えあう、共にある)の精神で、確固とした組織力でもって堅実な1歩を歩んでまいります。

今年も何卒よろしく願い申し上げます。



小規模多機能センター真誠会ふる里
看護師長 奥田 那美恵

明けましておめでとうございます。ふる里が、米子市和田町に居を構えて、一年四ヶ月が経過致しました。お蔭様で地域の皆様に可愛がられ、賑やかにそして和やかに過ごして参りました。今年は更に地域との密着度を強めて、名実ともにふる里が「地域の心のふる里」「助け合い里」「愛と希望の里」となるように職員一同精進していく所存です。これからもご指導のほどよろしく願います。



介護老人保健施設ゆうとぴあ
看護師長 村上 信子

新年あけましておめでとうございます。世の中の流れ、真誠会の流れのはやさを日々痛感しながら勤務しています。

89名のご利用者様お一人お一人に満足し、喜んでいただけるような職場を目指しています。

どのような状態でもその人らしく安心した生活をサポートできるように48名の職員一同一丸となって努力してまいりたいと思います。

今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



在宅福祉センター真誠会
看護師長 小徳 美千子

昨年は、在宅福祉センター(富益しあわせディサービス、青松庵)にとっては厳しい年でしたが、理事長先生をはじめ、皆様の温かいご支援のお陰で地域の方々に必要とされる事業所に成長することができました。

平成20年に向けて、職員一同力を合わせ「楽しい職場」「地域に愛される事業所」を目指して前進する決意です。何卒宜しくご指導のほどお願い申し上げます。



夢・目標・抱負



ケアハウスリバーサイド
看護師長 矢倉 ツヤ子

新年明けましておめでとうございます。

皇居の盆栽の中でも樹齢 600 年の「真柏(しんぱく)」は最古木だそう、針金で巻かれた不自然な作り方はされておらず、「なるべく木らしく自然の緑に、肥料は樹齢に合わせてほどほどに」というのが皇居の盆栽の特徴といわれています。

多くの人の手を経て伸びやかに育まれた木の命、ケアハウスリバーサイドの皆様もこの木のようにお元気にお過ごしいただいております。

本年はさらに「感動! 感激」を入居の皆様にご提供すべく職員一同いっそうの努力をしてみたいと思います。



介護老人保健施設弓浜ゆうとぴあ
看護師長 絹川 裕子

新年明けましておめでとうございます。

入職してはや 7ヶ月が過ぎました。ある利用者さまから「あなたの声はよく通る声だな」と声をかけてくださいましたが、よく見える眼(観察力)、よく聴こえる耳(傾聴)でありたいと思っています。

この仕事は大きな誇りであり、同じ目標をもつ仲間と活発に意見を交わしてケアの質向上に努めたいと考えております。どうぞ今年も宜しく願います。



真誠会セントラルクリニック
看護師長 井澤 美恵子

社会環境の急速な変化の中、医療制度改革では、①患者視点の重視②医療の機能分化③連携による医療提供体制の整備④在宅療養の推進、介護保険ではサービスの情報公表等を中心に施策が実施されています。真誠会で医療・介護・福祉に携わらせていただき、地域の方々や利用者様・患者様・家族様から求められ期待されるサービスの質の高さを日々感じながら、皆様の視点に応えられるよう努力しております。

新たな年を迎え、「生きていく最大の力を支え、健やかで尊厳ある死を支える療養上の世話」をさせていただき、自立的な援助をさせていただくことを、年頭にあげたいと思います。地域の皆様・御家族様の声を頂くのが一番の導きとっております。今年もどうぞよろしくお願いたします。



通所リハビリテーション真誠会
看護師長 佐平 登志美

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、格別なお引き立てを賜り、心よりお礼申し上げます。お蔭様で清々しい気持ちで 2008 年を迎え、これから始まる新しいプロジェクトに身の引き締まる思いです。本年は、「本当に大切なもの」真誠会の理念である「愛」を追求する年にしてみたいです。私たちにとって大切なものは、真誠会を利用してください。皆様からの「ありがとう。」の一言や心からの笑顔です。通所サービスを利用してください。心身の健康が、安心した暮らしにつながるサービスの提供に努めてまいります。本年も一層のご指導、ご鞭撻を頂きますとともに、皆様に於かれましても、喜びの一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



訪問看護ステーションネットケア
所長 岡田 悦子

医療ニーズの高い利用者が増え、「カテーテルが詰まった」「褥瘡が小さくなった」研修を終えたナースから「消毒も Y ガーゼも不要なんだって」「適切な栄養剤はね・・・」「ストーマの管理は・・・」「透析の血圧維持はね・・・」など複雑な会話が飛び交っています。新しい医療技術を学ぶ事も必要な時代になってきました。2008 年は、地域との連携を深めさらに、どんな医療ニーズにも対応できるステーションをめざします。



介護老人福祉施設ピースポート
看護師長代理 南 悦子

新年明けましておめでとうございます。

昨年は皆様には一方ならぬお世話になり厚くお礼申し上げます。ピースポートが開所して 8 年、入所者様一人一人が歩んでこられた人生と生活を尊重し「その人らしさ」を大切に介護を目指してまいります。

今年は子の年、安全・安心・安楽な生活が提供できるように危機意識をもち、フットワークよく職員一同、更に研鑽、努力をし、笑顔が絶えない職場作りを目指します。

職員と共に成長し末広がりの幸せになるよう頑張ります。

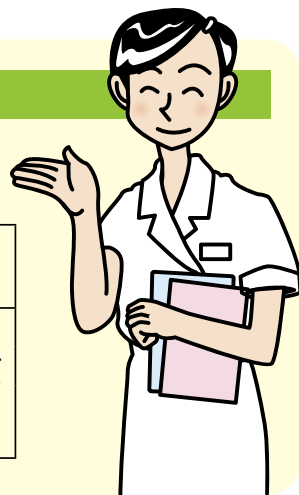
平成20年4月から 特定健診・特定保健指導 を行います!!

平成 20 年 4 月から新しい健診システム、特定健診、特定保健指導が開始されます。生活習慣病の発見と、生活指導による予防を柱としたもので、「特定健診・特定保健指導」と呼ばれます。対象は、40～74 歳までの保険に加入しているすべての方です。今までの健診は、被保険者が対象でしたが、新しい健診では被扶養者にも義務化されています。つまり、保険に入っている本人だけではなく、家族である妻も健診を受ける義務があります。特定健診が始まると、今までの健診は特定健診に一本化されます。たとえば、会社で行われていた企業健診では、特定健診で決められた検査項目が企業健診に組み込まれ、市町村が 40 歳以上の住民に行っていた住民健診は廃止され、特定健診がその代わりになります。

メタボリックシンドロームとは……………

ウエスト周囲径（腹囲）が基準値1を超え、かつ以下の2~4の項目中2つ以上で基準値を上回っていることです。

① ウエスト 周囲径(腹囲)	男性 85cm 以上 女性 90cm 以上 (腹囲測定実施不可の方はBMI 25以上)	2~4で2項目以上が基準値を上回っている
② 血糖	空腹時血糖 100mg/dl 以上または HbA1c 5.2% 以上	
③ 脂質	TG 150mg/dl 以上または HDL 40mg/dl 未満	
④ 血圧	最高(収縮期) 血圧 130mgHg 以上 または 最低(拡張期) 血圧 85mgHg 以上	



真誠会セントラルクリニックでは平成 20 年 1 月より医療法人 有真会の健診センターと業務提携をして、4 月より「特定健診・特定保健指導」を行います。

医療福祉 ホスピタウンネットワーク



ホスピタウン

医療福祉のまち

米子ホスピタウン

- ・真誠会セントラルクリニック (医) 29-0099
- ・透析施設オ ア シ ス (医) 29-1997
- ・通所リハビリテーション真誠会 (医) 24-6030
- ・介護老人保健施設 ゆうとぴあ (医) 24-5666
- ・短期入所療養介護 ゆうとぴあ (医) 24-5666
- ・通所リハビリテーション ゆうとぴあ (医) 24-5666
- ・訪問看護ステーションネットケア (医) 24-6777
- ・居宅介護支援事業所真誠会 (医) 48-0300
- ・脳活性クラブ米子真誠会 (医) 24-5984
(童謡の里 オルゴール館)

ホスピタウングループ本部 〒683-0852 米子市河崎581-3 TEL 24-5666



ホスピタウン

いえはら 歯科

9:00~12:30/2:30~6:30 TEL29-6599



ホスピタウン

辻田耳鼻咽喉科

9:00~12:30/2:30~6:00 TEL29-1187



ホスピタウン

泌尿器科・皮膚科 中下医院

9:00~12:30/2:30~6:00 TEL24-1727



ホスピタウン

助け合いのまち

小規模多機能センター 真誠会ふる里

〒683-0102 米子市和田町1722番地 TEL 25-1112



ホスピタウン

保健福祉のまち

弓浜ホスピタウン

- ・介護老人福祉施設 ピースポート (社) 48-2332
- ・短期入所生活介護 ピースポート (社) 48-2332
- ・介護老人保健施設 弓浜ゆうとぴあ (医) 48-2334
- ・短期入所療養介護 弓浜ゆうとぴあ (医) 48-2334
- ・通所リハビリテーション 弓浜ゆうとぴあ (医) 48-2334
- ・通所介護 弓浜ゆうとぴあ (社) 48-2337
- ・通所介護 弓浜ゆうとぴあ (認知症対応型) (社) 48-2337
(ふくろうの里)
- ・認知症専門通所介護 弓浜脳活性クラブ (医) 48-2339
(若竹庵)
- ・訪問介護 弓浜真誠会 (社) 48-2336
- ・米子市弓浜地域包括支援センター 48-2330
- ・ケアプランセンター 弓浜真誠会 (社) 48-2335
- ・ケアハウス リバーサイド (社) 48-2630
〒683-0104 米子市大崎1511番地1 TEL48-2331(代)



ホスピタウン

在宅福祉のまち

在宅福祉センター真誠会

- ・富益しあわせデイサービス米子真誠会 (社) 25-6811
- ・富益しあわせ認知症デイサービス米子真誠会 (社) 25-6811
(ダンスダンス)
- ・グループホーム青松庵 (社) 25-6813
〒683-0103 米子市富益町235番地8 TEL25-6811(代)